

【令和7年度 学校教育に関するアンケート 記述への回答】

Q1. 学年便り等のお手紙も「すぐーる」で配信して欲しい。

A. 学級便りや学校便り等は学校ホームページにて公開しております。そちらをご確認くださいませようお願いします。

Q2. 季節性の感染症（インフルエンザなど）の情報を配信してもらえるとよい。

A. プライバシーにも関わりますので、クラス単位で個別の感染症の詳細をお伝えすることはできません。学級閉鎖等の情報は、これまで通り「すぐーる」にて全校周知して参ります。

Q3. 入学後すぐに雑巾や定規なども準備するよう連絡があったが、入学前の準備の時に教えてほしかった。家庭で用意するものを学期始めにまとめて教えて欲しい。

A. 新1年生保護者会の際にお渡しする資料の中に、入学までに準備していただくものの表記がありますので、そちらに定規と雑巾についても追記させていただきます。家庭で用意するものは、学習内容の変更で不要になることもありますので、学期始めに全てお伝えすることは難しいです。必要なものについてはご家庭で余裕をもってご準備できるように、事前に学年便り等でお伝えするよう配慮いたします。

Q4. 本町小への要望というよりも、西東京市教育委員会への要望だが、IT教育を実施する上でIT資産の利用が重要なのに、修理に出したら半年以上返却されない状況は改善が必要。IT資源のサイクルは3年程度。その点をきちんと含んだ上でタブレット端末の購入（リース等）を検討するべき。

A. 本町小学校としましても、いただいたご意見を市に挙げていきたいと考えます。先日新しいタブレットが全児童に貸与されましたので、大切に扱うよう指導を継続していきます。

Q5. 子をもつ親の気持ちとして年3回の楽しみなので、個人面談もありつつ、あゆみに先生からのコメントも書いて欲しい。

A. 個人面談と平行してあゆみを作成する作業は、教員にとって過度な負担となり、本来時間をかけるべき授業準備や学習の評価にあてる時間が相対して減ることになります。教員の働き方改革の観点も含めて、ご理解ください。

- Q6. 教育委員会や文部科学省の指標だけではなく、先生たち自らの経験や思いをナラティブに子供たちに教授して欲しい。
- A. 学習指導要領に基づいて学習活動を体系化し、具現化しています。1年間で行う学習活動は、年度当初に年間指導計画を作成し、担任はその計画を基に授業を組み立てます。計画されているものを確実に実施しますが、その中で時には教師の体験や感情、意味付けに重きを置いてナラティブに担任が展開する授業があってもよいと考えます。
- Q7. 感染症対策が個人の判断に委ねられていることは百も承知だが、手洗いと換気とマスクの着用が感染症対策として有効であることは厚生労働省も広報する事実である。せめて冬の流行期だけでもプリントなどで対策の有効性と必要性を周知した上で、マスク着用の呼びかけ、ならびに教員が率先してマスクを着用するなどの取り組みをしていただけないか。
- A. マスク着用の有効性については、現在もその必要性に応じて児童に話をしています。また、教員のマスク着用に関しても、給食の配膳時等、必要な時には着用しています。しかし、マスクの着用を強制はできないため、児童の着用は個人の判断に任せています。教員については、マスクを着用した状態では児童全体に言葉が伝わりにくいという点と、表情から読み取らせたり感じ取らせたりする場面が授業の中にあるという点で、常時着用というのは難しいです。感染拡大の状況等を鑑みながら、判断していきます。
- Q8. 児童間のトラブルが生じた際に、ある一定のマニュアルや対応の仕方を学ぶ機会を設けると、先生方も対応がしやすくなるのではないかと思う。
- A. トラブルの対処法については、年度当初に共通理解を図り、週に1回の職員ミーティングで振り返りを行っています。また、いじめにつながる問題については担任一人で抱えるのではなく、児童への聞き取りなど必ず組織で対応するようにしています。
- Q9. ホームページは、保護者向けの月末情報更新が早いとありがたい。
- A. 昨年の学校評価でのご意見を受けて、今年度は月末3日前には学校便りや学年便りを配布しております。それに伴って順次ホームページの更新も行ってまいります。
- Q10. 学校校庭開放が、保護者会や短縮授業に合わせて利用できると安心して外遊びへ送り出せる。
- A. 低学年の保護者会の裏で、児童が待てるように校庭開放や図書館開放を行う事はあります。しかし、校庭開放自体は市の管轄ですので、開放管理員の方は学校職員ではありません。協力を依頼する形になりますので、全て学校の都合に合わせていただくことは難しいです。

- Q11. 家庭の事情で家で宿題をする暇がない時があるので、学校で休み時間に宿題をすることを許可して欲しい。
- A. コロナ禍のオンライン学習を経て、友達と関わり合い、認め合う学校教育の価値が再確認されました。休み時間は、友達や異学年で触れ合う大切な時間です。ご家庭で時間調整をされた上で、宿題がどうしても終わらないということであれば、担任にご相談ください。宿題の有無、分量や範囲などを調整することは可能です。
- Q12. 宿題の提出に差があるようで、子供が「出さない人もいるから出さなくていいんだ。」と言っていたので、宿題はちゃんとやる様に指導したが、学校でも指導して欲しい。
- A. 学校でも宿題は毎日きちんと提出するよう言葉掛けをしております。宿題の提出に差があるのは、繰り返し指導しても提出できていない児童がいるためと思われます。あまりに提出がない場合は、保護者に連絡してご協力いただく場合もございます。ただし、Q11でお答えしたように、保護者が宿題の提出に賛同しない場合もあることをご理解ください。
- Q13. 教職員の働き方改革が進むにつれ、子供たちが置いてきぼりになっているように思う。大変だとは思いますが、夏のプールや移動教室など、子供たちの学びの場が減っているのかわいそうに思う。
- A. 夏季休業中の水泳指導については、熱中症の危険性が高まることから市内の小学校は全校実施しないことになっています。ご了承ください。移動教室に関しては、今年度も6年生が赤城移動教室に参加しています。その他にも、1・2年生は生活科見学、3～6年生は社会科見学、4年生は理科見学も実施するなど、校外学習の機会を設けています。また、地域コーディネーターと連携して、全学年で地域人材を活用した学習を展開したり、5・6年生を対象に国際理解教育としてゲストティーチャーを招いて授業を行ったりしています。今後も職員の働き方改革も推進しながら、子供たちの学ぶ機会も確保していくことを継続していきます。
- Q14. 宿題の連絡がタブレットのみで送られているようですが、連絡がこない事が度々ある。娘は予想で宿題をしているが、必ず連絡は欲しい。特に、週末の連絡は土曜日ではなく金曜日に連絡して欲しい。
- A. 宿題の連絡が度々送られていないことや週末の連絡に不都合があり、申し訳ありません。再度、タブレットで連絡する際には、毎日忘れず行うこととし、週末の連絡は金曜日に行うようにいたします。

Q15. なかなかデジタルに触れる機会はあっても、本に触れる機会が少ないので、朝読書や子供同士のおすすめの本を紹介等あったらいいと思う。

A. 学校としても、読書旬間に図書委員の読み聞かせや、本の紹介新聞・カードの取組、ブックトークを行ったり、年間を通して週1回以上朝読書の時間を設定したりするなど、読書の取組を推進しています。今年度は保谷中学校の図書委員の生徒による読み聞かせも行いました。今後も子供たちが本に親しむ機会を増やせるようにしていきます。

Q16. 担任の先生が不在の中、手紙1枚で保護者や児童に途中経過の説明がなく、2カ月が過ぎようとしている。クラスの中には不登校や保健室に行く児童も見られるようになった。先生方が大変なのは十分理解しているが、児童が小学校生活や中学校生活に不安を抱いたまま卒業することがないよう、児童に寄り添った教育活動をして欲しい。

A. 担任の病気休業に伴い、音楽専科を6年3組の担任としております。担任が変わり、不安を抱いている児童もいることは予測できますが、個人面談等で得た情報からは、そうした児童の数は少ないことが分かりました。だからと言って油断するのではなく、今後も1・2組の担任が様々な教科や道徳の授業で3組の指導をしたり、気になる児童には言葉掛けをして悩みを聞いたりするなど、学年で見守る体制をとっていきます。子供たちが不安を抱いたまま進学することがないよう、工夫してまいります。

Q17. 課題を抱えた児童や家庭が多く、先生が対応しなくてはならない課題が多様で多いと思う。複数での担任や、もっと少人数学級にしないと児童への目が行き届かないと思う。学校だけの努力では解決できない課題と考えるが、不安な気持ちは高学年になるほど感じた。

A. 複数担任や更なる少人数学級の実現については、学校で判断・実行できるものではございません。そこで、本校では、道徳交換授業や他のクラスの教員が指導する一部交換授業を実施して、児童が複数の教員と親交を深める機会をもつ工夫をしています。まず、その部分をご理解していただきたいです。思春期を迎える子供たちは様々な課題を抱えます。それを乗り越えていく力をつけさせるのもこの時期です。ご意見いただいた通り、学校の抱える教育課題は多岐に渡ります。法令を遵守しつつ、できることを探し、工夫を重ねています。ご家庭でも、お子さんが壁に当たった際は、それを乗り越える力を自身が身に付けていくことも大切だとお話いただき、学校と情報共有や連携を図りながら共に成長を見守っていければと考えております。